

# 鵬

# 高

岩手県立盛岡第三高等学校同窓会事務局  
〒020-0114 岩手県盛岡市高松四丁目17-16  
TEL 019-661-1735 FAX 019-661-1221

## 同窓会報 2025

●発行 令和7年9月30日



## 同窓会総会・懇親会のご案内

令和7年

**11月8日(土)** ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING

総会 16:00 懇親会 17:00

会費 5,000円 (学生2,000円)

(参加の申込は本校HPよりお願いします。会費については同窓会より一部補助が出ております。)



同窓会長  
藤原 誠司  
(13回生)

# 盛岡三高の これから

円安、物価高騰、コメ問題、猛暑、トランプ関税…など、少し前には考えもしなかったことが次々と起こる昨今ですが同窓生のみなさんはお元気でお過ごしでしょうか？開校13年目に入学した私には「盛岡三高＝若い高校」のイメージがありますが1回生はすでに77歳の喜寿を迎えておられますし、後から誕生した高校も多数あり、もう「伝統校」と言っている立場になってきていると思います。そして歴代の先生方、同窓生たちが築いてきた文武両道の「さわやか」なイメージは中学生からは「入りたい高校」、親からも「入らせたい高校」の最上位高として長い間人気を誇ってきました。部活動も活発で春の高校総体でもボート、新体操、陸上などで大きく名前が載っていましたし、文化部でも文芸部や吹奏楽部などが今や名門といえる活動を続けてくれています。

しかし、昨年も書きましたが高校選択の考え方は変わりつつあります。少子化の波の中、政府は高校授業料無償化の方針を打ち出し、それは私立まで含むこととなり

ました。専門分野に強く、希望はあっても学費の高さがネックになっていた私立志望受験生のハードルが下がります。そしてすでに普通高校では学級減も進み、合併も行われました。これからはそれぞれの高校が独白色を打ち出して存在価値を高めていかなければ受験生に選んでもらえません。私の高校受験の頃は普通高校を落ちたら私立に入るか浪人するかを選択するという形で、それぞれの将来を考えた進学先選択という指導はされなかったような気がします。「とりあえずはぎりぎり届きそうな高校を受験して入学したら次を考えましょう」という感じでした。高校に入っても授業の中で将来を考える場は少なく「先のことがわからないならとにかく勉強して、大学に入ってそれから考えなさい」という感じでした。やがて大学に入ることだけが目標となってしまった結果、遊んでしまっただけでその先にたいへんな状況が待っていたわけです。(自分を振り返っております)その意味では早いうちに自分の個性に目をむけながら才能を伸ばせる高校選択が可能になってきたのはいいことだと思います。今、三高では特色入試の他、選択的単位制度を導入して入学後に将来を見据えた科目選択が学年を越えて柔軟にできるようになりました。他校の取り組みも見ながらこのような改革を続けていくことで志望者を減らすことなくさらなる発展を望むばかりです。これからも私たちは同窓生として三高がどのような方向に向かっていくのか見守り、後輩たちの活躍に目を向け、少しでも活動の支援ができるよう体制を作っていきます。ご協力よろしくお願ひいたします。

同窓会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に格別のご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年度4月に着任いたしました校長の菅野と申します。本校には、教諭として平成21年度から7年間、副校長として令和3年度から2年間お世話になりました。素晴らしい生徒たちや職員の皆様とともに過ごせた日々は一生の宝物ですし、ちょうど創立50周年、60周年記念式典に携われたことも良い思い出です。4月の新任式での生徒の拍手の大きさや入学式で吹奏楽部が演奏した「セレモニアルマーチ未来への階」を聴き、戻ってきたのだという思いを強くしました。再び、いや三度、盛岡三高に勤務できる喜びと責務を日々噛みしめております。

さて、本校では今年度の入学生から、岩手県内の高校では初となる、進学型単位制を導入しております。習熟度別授業や少人数学習、進路希望に応じた多様な科目選択等を通して、生徒一人ひとりに応じた質の高い学びと進路実現を図っていきます。併せて、「総合的な探究の時間」を「ORP（おおとりリサーチプログラム）」と名付け、生徒自らの問いやりサーチ、対話を重視することで、探究的な学びの一層の充実も図っております。これまで本校が行ってきた学習活動や探究活動をさらに進化させ、魅力ある学校づくりを進めていきます。

次に、生徒たちは三高生の礎である「文武不岐」を胸に、特別活動にも一生懸命に取り組んでいます。中国インターハイには、新体操部女子団体、弓道部男子個人、陸上競技部女子個人、テニス部男子個人、ローイング（ボート）部男子、なぎなた女子個人が出場しました。香川県で開

# 三度目の 盛岡三高



校長  
菅野 幸貴

催された全国高総文祭には、文芸部、美術部、視聴覚委員会、理数探究コース化学班が出場しました。私は県高総体の様子を前期、中心会期と7日間にわたって視察しましたが、各競技会場において三高生の目覚ましい活躍を目にすることができ、改めて、さわやか三高生たちの頑張りや素晴らしさに感銘を受けました。

また、コロナ禍で中止していたSRH(サイエンスリサーチハイスクール)事業における海外研修も復活し、3月中旬の5日間、8名の生徒が台湾の台北市を訪問しました。台北市立中崙高級中学校生徒との交流、淡江大学での講義受講や日本人留学生との交流、故宮博物院や国立台湾博物館の見学等、生徒たちの見識や視野を広げる貴重な研修となりました。同窓会からもご協力をいただいたことに深く感謝申し上げます。

今後も盛岡三高の更なる発展を目指して、生徒、職員一丸となって邁進していく所存でございますので、引き続き、同窓会員の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

# 同窓生 だより

## ～東北には意志がある～

宮城大学 奥 裕二郎 (58回生)

この度、高校3年生の時にお世話になった担任の先生より、同窓会報への寄稿という貴重な機会をいただきました。現在大学3年生の私は、まだ社会人としての経験はございませんが、皆さんと近い世代として、大学生生活の真ただ中にいるからこそお伝えできる率直な声があるのではないかと考えております。大学での学びや日々の体験を通じて感じたことを素直にお話しすることで、高校生の皆さんが自分なりの未来を描き、大学進学を前向きに捉える一助となるよう、心を込めて綴らせていただきます。

私の高校時代を振り返ると、部活動で取り組んだアルペンスキーに全てを捧げた3年間でした。部員わずか2名という環境の中で、夏季はひたすら自分を追い込む日々を過ごし、冬季に入ると約3ヶ月間遠征や大会への参加でスキー場に籠る生活をしていました。インターハイや国体への出場という目標は達成できましたが、全国入賞という目標は叶えることができませんでした。今振り返ってみると、部活動とは「自分の努力と社会からの評価を照らし合わせる場」であったと感じています。自分なりに納得できるほど努力を重ねても、全国という舞台では結果は時として非情でした。全国大会で上位に立つ選手たちは、どんな環境でも圧倒的な努力量そのものを積み重ねていることを、身をもって知らされました。自分の能力の欠如を素直に受け入れ、それでもなお前を向いて再び立ち上がる。この経験を何度も繰り返したことで、大学進学後の現在も、自らコンフォートゾーンを抜け出し、新たな挑戦の場で戦っていく意識が自然と培われたのだと実感しています。

私は大学で「事業構想学」というOから新しい価値を生み出すための学問を専攻しています。入学以来、10件以上の新規事業案を構想し、ビジネスコンテストでも2度の優勝を経験しました。そんな私が大学生生活で最も力を注いできたのが、学生団体「Brush」の活動です。Brushは私が大学一年生の時に、同級生11名と立ち上げました。発足のきっかけは、宮城大学に通う中で、夢や目標を持ちながらも仲間やノウハウ、資金や人脈といった「環境の不足」によって挑戦を諦めてしまう学生が多いことに課題を感じたことでした。「すべての挑戦者を、エンパワーメントする」というVISIONのもと、仲間同士でアイデアをブレインストーミングし合える場や、スポンサー制度による資金サポートなど、挑戦のハードルを下げる仕組みを構築してきました。Brushの活動の中で最も大きな挑戦となったのが、宮城県塩竈市の離島・桂島での海の家を復興させるプロジェクトです。高齢化により閉業した海の家は、島唯一の消費拠点だったため、その閉鎖は地域経済の実質的な喪失を意味していました。私たちはこの現状を「地域の未来への危機」と捉え、共感した学生80名とともに、海を家の復活を目指しました。このプロジェクトを進める中で、私は東北という土地に根付く特別な「意志」を強く感じるようになりました。正解の見えない困難な状況の中で、これまでこの地に住んできた人々の思い出や原風景を、決して風化させてはいけないという強い信念がそこにはありました。それは単なる地域的特色を超えた、時代を貫く精神性に近いものがあり、地方創生における根本的な課題に対する重要な示唆を与えてくれるものでした。

この東北の意志のルーツを辿ると、かつて大和政権の支配に屈しなかった「まつろわぬ民」としての蝦夷の歴史に行き着きます。権威や既存の価値観にとらわれず、自らの信念に基づいて生きるという精神は、今も脈々と受け継がれています。さらに、津波や地震など度重なる自然災害に直面してきた東北で、何度でも街を再建しようとする人々の姿勢には、「命の数珠繋ぎ」の延長線上に自分たちが位置しているという意識と、先人から受け継いだ生命と文化を次の世代へと確実に引き継ぐという深い責任感が宿っています。私たちの桂島での活動も、まさにこの精神の現れだと感じています。

しかし、現代社会を見渡すと、明治維新の時代に世界規模で起こった「生の国有化」という現象の影響が色濃く残っています。近代国家への移行過程で、私たちは個人の生き方や役割を国家に委ね、その結果「消費者」として観客席に押し上げられてしまいました。個々人が持つ社会的自覚性は国家という大きな枠組みに吸収され、私たちは受動的な存在になったのです。近代国家の成立過程では、中心となる政府を作ることで周辺部を効率化してきましたが、その過程で地方は中央への「依存心」を育んでしまいました。この依存こそが思考停止の一形態であり、自ら考え行動する主体性を失わせる原因となっていたのだと思います。

こうした現代社会の課題に対して、東北という土地では抗う動きが生まれています。近年、ヘラルボニーや雨風太陽といったインパクトスタートアップが東北から相次いで生まれていることは、決して偶然ではありません。これらの企業に共通するのは、従来のビジネスモデルとは根本的に異なるアプローチを採っていることです。ヘラルボニーの松田さんが語る「思想の拡張の先に、市場の拡張がある」という言葉は、この現象の本質的な部分を表していると思います。東北では、外部環境を分析してから戦略を立てる一般的な「アウトサイドイン」型のアプローチとは逆に、「強い思い」が事業を牽引する「インサイドアウト」型の動きが実際に起こっています。これは単なるビジネス手法の違いではなく、この土地に根ざした歴史的な精神性の現れなのではないでしょうか。私たちBrushの地方創生プロジェクトも、まさにこの「インサイドアウト」型のアプローチから生まれたものでした。雨風太陽が提唱した「社会的財務諸表」といった新たな指標も、経済的価値だけでなく社会性や意志を可視化しようという試みであり、数字では表現しきれない価値を社会に示すことで、新たな評価軸を創造しようとしているのです。

社会の変化がこれほどまでに激しい現代において、大学進学に関しても、もはやこれまでのように明確な「敷かれたレール」は存在しません。今こそ私たちは観客席からグラウンドへ降り、自分自身が「提供する側」として社会に関わるべき時なのだと思います。「当事者意識」という言葉がよく使われますが、まず問われるべきは自分自身の人生の当事者になっているか、自らの人生を自分の手で創造し、その価値を握っているかということです。国家に一度「国有化」された生を、再び自らの手で「奪還」する。この思想こそが、現代の東北発インパクトスタートアップの根幹であり、Brushの活動で私自身が大切にしている価値観でもあります。

そして最後に、私たちが向き合わなければならない根本的な問いがあります。それは、「将来人口がOになることがわかっている地域を復興する意義とは何か」というものです。この問いに対して、単純な経済効率や合理性からは答えは出ません。しかし、東北の歴史や精神性、そして実際の活動を通じて見えてきたのは、「命の連続性」や「未来への責任」といった数値では測れない価値です。人口減少という現実を前にしても、なお立ち上がるようとする意志こそが、現代社会が最も必要としている力だと思えます。それは、自らの生を国家や社会に委ねるのではなく、自分自身で価値を創造し、次世代に何かを残そうとする東北民の根源的な熱量なのです。

この意志がある限り、そして自らの人生を自らの手で切り拓こうとする人々がいる限り、たとえ人口がOになる地域であっても、その復興の取り組みには計り知れない意味があると私は考えています。それは単なる地域の再生を超え、人間が人間らしく生きることの本質を問い直す契機となるからです。私自身も、Brushでの活動を通じてこの「意志」を受け継ぎ、次世代へと伝えていくことに使命を感じています。東北という土地が持つ強い思いを、未来の価値創造へとつなげていきたい。それが、私の挑戦の原点なのだと思います。

# 2025 部活動 報告

<運動部>

## 陸上競技部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
陸上競技

▼男子	400mH 砲丸投 100m 200m 800m 1500m 4×400m	第3位 第5位 第1位 第1位 第1位 第2位 第2位	齋藤涼平 梅田礼司 工藤玲七 工藤玲七 滝本菜心 滝本菜心 角田桜子・工藤玲七・ 江藤結遥・滝本菜心
▼女子	400mH 3000m 5000mW 800m 100mH 走幅跳 円盤投 400m 1500m 砲丸投	第3位 第4位 第4位 第5位 第5位 第5位 第5位 第6位 第6位 第6位	上中優奈 小川佳鈴 吉田一花 川崎芽生 小田中菜 三上夢唯 上路華鈴 上路華鈴 江藤結遥 小川佳鈴 上路華鈴

以上東北大会進出

【総合】 女子トラックの部 第2位  
女子総合 第4位

●第80回東北高等学校陸上競技大会  
【東北ブロックインターハイ予選】

▼女子 800m 第5位 滝本菜心  
インターハイ出場

100m 第8位 工藤玲七

## 新体操部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
新体操

個人総合 第3位 工藤璃乃  
東北選手権出場

個人総合	第4位	岩館空那
個人総合	第6位	渡邊心愛
フープ	第3位	岩館空那
リボン	第3位	工藤璃乃
団体	第1位	工藤璃乃・岩館空那・ 澤田雪乃・渡邊心愛・ 柴田詩世

東北選手権・インターハイ出場

●第54回東北高等学校新体操選手権

個人総合	出場	工藤璃乃
団体	第6位	工藤璃乃・岩館空那・ 澤田雪乃・渡邊心愛・ 柴田詩世

●令和7年度全国高等学校総合体育大会

団体	第23位	工藤璃乃・岩館空那・ 澤田雪乃・渡邊心愛・ 柴田詩世
----	------	----------------------------------

## 水泳部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
水泳競技

▼男子	100m自由形 第8位 皆川藍瑠
▼女子	400m個人メドレー 第5位 佐藤花星
	4×100mリレー 第7位 昆 来瞳・菊池萌生・ 千田光梨・佐藤史織
	4×200mリレー 第7位 菊池萌生・中野綾夏・ 佐藤花星・佐藤史織



4×100mメドレーリレー  
第6位 千田光梨・菊池萌生・  
佐藤史織・中野綾夏  
以上、東北大会出場

## バスケットボール部

●第77回岩手県高等学校総合体育  
バスケットボール競技

▼男子	盛三 114-77 釜石 盛三 88-74 水沢 盛三 56-89 黒沢尻工業 ベスト16
▼女子	盛三 102-39 金ヶ崎・翔南・水商 盛三 85-44 盛岡第四 盛三 45-89 一関学院 ベスト8

## バレーボール部

●第77回岩手県高等学校総合体育  
バレーボール競技

▼男子	盛三 2-0 盛岡北 盛三 2-0 久慈・久慈翔北 盛三 2-0 宮古 盛三 1-2 南昌みらい 第3位 優秀選手賞 田口一徹
▼女子	盛三 2-0 軽米 盛三 2-0 釜石 盛三 2-0 一関修紅 盛三 0-2 盛岡誠桜 第3位 優秀選手賞 秋田愛深

## 卓球部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
卓球競技

▼男子	学校対抗 盛三 3-0 大東 盛三 2-3 花北青雲 ベスト16 個人戦ダブルス 小林レオ・長嶺孝明 組 ベスト16 個人戦シングルス 第17位 小林レオ 東北選手権出場
▼女子	学校対抗 盛三 3-0 宮古商工 盛三 3-1 黒沢尻北 盛三 3-1 花北青雲 盛三 0-3 盛岡第二 第3位 個人戦ダブルス 川田菜緒・松川裳那 組 ベスト16 個人戦シングルス 松川裳那 ベスト16 東北選手権出場

## ソフトテニス部

●第77回岩手県高校総体ソフトテニス

▼男子	団体戦 盛三 2-1 高田 盛三 2-0 花巻南 盛三 0-2 一関学院 ベスト8
▼女子	団体戦



盛三 2-1 盛岡誠桜  
盛三 0-2 盛岡市立

## サッカー部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
サッカー競技

盛三 0-4 南昌みらい

## ラグビー部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
ラグビーフットボール競技

盛三・盛岡北・岩手・一関工業合同  
0-72 黒沢尻北  
盛三・盛岡北・岩手・一関工業合  
47-38 盛岡一

## ハンドボール部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
ハンドボール競技

▼男子	盛三 23-28 盛岡中央
▼女子	盛三・盛岡誠桜 20-15 盛岡二 盛三・盛岡誠桜 15-28 白百合 第3位 優秀選手賞 柳原かほり

## バドミントン部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
バドミントン競技

▼男子	団体戦 盛三 3-0 水沢商業 盛三 0-3 黒沢尻北
▼女子	団体戦 盛三 3-0 遠野 盛三 0-3 前沢
個人戦ダブルス	高橋愛泉・細川実桜 2-1 花北青雲 高橋愛泉・細川実桜 2-0 前沢 高橋愛泉・細川実桜 0-2 花北青雲 ベスト8

## 剣道部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
剣道競技

▼男子	個人 3回戦敗退 村井俊哉 5回戦敗退 高橋宏河
▼女子	個人 3回戦敗退 及川育実

## 弓道部

●第67回岩手県弓道選手権大会

▼男子	第2位 館川 陽
▼女子	第1位 大宮璃子 射道優秀賞受賞
●第77回岩手県高等学校総合体育大会 弓道競技	▼男子 団体 第3位 個人 第1位 新沼館壺成 東北選手権大会・インターハイ出場権 決勝戦進出 小野寺奏真
▼女子	団体 準々決勝進出 ベスト16

個人 第6位 馬場彩夏  
東北選手権大会出場権獲得

●第55回東北高等学校弓道選手権大会
▼男子 個人 出場 新沼館壺成
▼女子 個人 出場 馬場彩夏
●令和7年度全国高等学校総合体育大会 弓道競技
▼男子 個人 出場 新沼館壺成

## ローイング部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
ローイング競技

▼男子	ダブルスカル 第2位 佐々木祥・岩崎顕真 東北選手権大会出場権
舵手付クォドルプル 第1位	館澤奈緒・鈴木健一郎・齊藤日陽・ 吉田和生・若澤凜空 東北選手権大会、インターハイ出場権
男子総合優勝	
▼女子	ダブルスカル 第2位 木村稀絢・細屋星奈 東北選手権大会出場権

●第51回東北高等学校ローイング選手権  
大会

▼男子	ダブルスカル 予選4着、敗者復活戦5着 佐々木祥・岩崎顕真 舵手付クォドルプル 予選3着、準決勝進出 館澤奈緒・鈴木健一郎・齊藤日陽・ 吉田和生・若澤凜空
▼女子	ダブルスカル 予選3着、準決勝進出 木村稀絢・細屋星奈

●令和7年度全国高等学校総合体育大会

▼男子	舵手付クォドルプル 敗者復活戦4着
-----	-------------------

## テニス部

●岩手県ジュニアテニス選手権大会

▼男子	シングルス U16 第6位 長井煌汰郎 U18 第4位 木谷 隼 ●東北ジュニアテニス選手権大会
▼男子	U18 第6位 柵山実輝 ダブルス U18 第3位 木谷 隼・柵山実輝 U16 長井煌汰郎・他校生とのペア ベスト8

▼女子  
ダブルス 坂待似子・佐々木和奏  
ベスト8

●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
テニス競技

▼男子	団体 盛三 1-2 花巻北 盛三 2-0 南昌みらい 盛三 0-2 盛岡四
個人	シングルス 準優勝 木谷 隼 東北大会・全国高校総体出場権
ダブルス	佐々木雅犀・長井煌汰郎 ベスト8 木谷 隼・柵山実輝 ベスト8

●第66回東北高等学校テニス選手権大会

個人	シングルス 1回戦敗退 木谷 隼 0-6 仙台三
●第20回岩手県民テニス大会 (少年の部)	▼男子 シングルス 第2位 柵山実輝 第3位 長井煌汰郎

▼女子	シングルス 畑希乃羽 ベスト8
●東北ジュニア選手権大会	
▼男子	シングルス 木谷 隼 ベスト8
●夏季ジュニアトーナメントU17	
▼男子	シングルス 第4位 柵山実輝
●令和7年度全国高等学校総合体育大会	
▼男子	シングルス 木谷 隼 1-6 立命館慶祥 (北海道) 1回戦敗退

## 空手道部

●第55回岩手県空手道選手権大会

▼女子	団体組手 初戦敗退
●第77回岩手県高等学校総合体育大会 空手道競技	
▼女子	団体組手 第3位

## 野球部

●第77回岩手県高等学校総合体育大会硬  
式野球競技兼第72回春季東北地区高等  
学校野球岩手県大会

盛三 9-0 宮古 (7C)  
盛三 3-10 盛岡誠桜 (7C)  
ベスト16

●第107回全国高等学校野球選手権岩手大会

盛三 11-1 千厩 (6C)  
盛三 4-7 盛岡一

## <文化部>

### 書道部

●第23回岩手県高等学校書道作品コン  
クール

奨励賞	角掛那緒・及川結月・羽沢遥菜・ 石沢香蓮・赤川優月
●第20回岩手日報高校書展	日報大賞 及川結月 優秀賞 田畑舞桜 秀逸賞 角掛那緒・川又 董・沼田優唯 石沢香蓮

入 選	川又陽奈望・高橋日菜 小澤瑚々・櫻田凛羽・洪田 咲・ 赤川優月・羽沢遥菜・南野心夏・ 片山和奏・根城心菜・鈴木絢菜・ 佐々木りな・中村紗玖・木村詩乃
-----	--

## 音楽部

●第77回全日本合唱コンクール岩手県大会  
高等学校部門 銀賞

## 吹奏楽部

●第63回岩手県吹奏楽コンクール岩手県 大会	高等学校の部 金賞 (令和8年度全国高等学校総合文化祭秋田 大会へ推薦)
●第68回東北吹奏楽コンクール	高等学校の部 銀賞

## 囲碁将棋部

●第47回岩手県高等学校将棋大会	
▼男子	団体 B級優勝 獅子内陸仁・田口悠就・石山総司
▼女子	個人B級 第2位 大崎 光

## 文芸部

●かがわ総文祭2025	散文部門参加 田島颯大 文芸部誌部門参加 大川悠花
●第10回高校生万葉短歌バトルin高岡	団体 第3位 窪田 明・田中陽菜・ 本間周子
判者賞(佐々木頼綱賞) 窪田 明	
●第20回全国高校生短歌大会 短歌甲子園 2025	団体優勝 藤村 嶺・嶋 瞳・高橋こころ

●令和7年度岩手県高校生文芸コンクール  
[詩部門]

優秀賞	嶋 瞳・鈴木登陽
[俳句部門]	優秀賞 田中陽菜 優良賞 田島颯大・大川悠花
[随筆部門]	優秀賞 窪田 明
[小説部門]	最優秀賞 鈴木登陽 優秀賞 菅原菜央・田島颯大・大川悠花 窪田 明
[文芸部誌部門]	優良賞 小泉大和・藤村 嶺 優秀賞

## 華道部

●第78回岩手芸術祭華道展出版

吉田朱里・高橋心桜・元木詩夏・  
佐々木美優・小須田百香・三浦嘉心・  
高橋あかり・星合優菜

## 視聴覚委員会

●第48回岩手県高等学校総合文化祭  
放送部門大会

アナウンス部門	優良賞 川又陽奈望
ラジオドキュメント部門	優良賞 『防災無線で繋ぐ命』 嶋 瞳・高橋こころ
テレビドキュメント部門	優良賞 『とうふでトップ』 川又陽奈望・田畑舞桜・ 高山結人
創作ラジオドラマ部門	優秀賞 『友居れば、永遠の幸』 三浦嘉心・稲垣百花

第72回NHK杯全国高校放送コンテスト大  
会推薦

## その他

《なぎなた》  
●第77回岩手県高等学校総合体育大会  
なぎなた競技

第1位 南館ひより  
2025インターハイ出場権

●第27回東北高等学校なぎなた選手権大会

南館ひより ベスト8

●令和7年度全国高等学校総合体育大会  
なぎなた競技

南館ひより ベスト16

## 《三味線》

●第43回津軽三味線世界大会

ユース優勝C部門 堀岡耀心  
第1位 和野佳保

## 《武術太極拳》

●第42回全日本武術太極拳選手権大会

女子規定難度太極拳の部  
第1位 和野佳保

●第79回国民スポーツ大会武術太極拳競技

ジュニア太極拳2 (少年女子)  
第2位 和野佳保

●令和7年度岩手県高校生文芸コンクール  
(演劇部)

[戯曲部門]

優秀賞 小笠原綾音 佐藤美晃  
優良賞 小泉りさ

●令和7年度岩手県高校生文芸コンクール  
(国語科)

[短歌部門]

最優秀賞 清水理央  
優良賞 小泉三礼 櫻庭蒼真

[俳句部門]

優良賞 萩原未有



## 「盛岡三高 鵬同窓会 関東支部」を紹介します。

鵬同窓会関東支部は、関東在住の有志によって運営されています。1回生(78歳)から、60回生(18歳)まで、世代を越えての気軽な集まりです。

2025年2月1日(土)には、「関東支部総会・懇親会」を開催し57名の参加がありました。母校の木村基校長先生や佐藤義之先生、同窓会長の藤原誠司さん(13回生)にも駆けつけていただき、盛岡三高の「いま」をお話していただきました。全員での校歌斉唱は、今年も心に染みました。

また「関東支部新人歓迎会」を6月15日(日)に開催し、飲茶ランチをいただきながら、60回生2名を含む16名と楽しく交流ができました。



2025.6.15 新宿アイランドタワーにて関東支部新人歓迎会



2025.2.1 東京グリーンパレスホテル  
関東支部総会・懇親会

2025.2.1 音楽部会

関東支部では、定例幹事会、ゴルフや音楽などのさまざまな部会の活動も 行っております。ホームページ、Facebook、Xでもお知らせしていますので、登録してぜひご参加ください。



2025.5.11 岩手県人連合会主催  
「献血の呼びかけボランティア」



2025.8.11 ゴルフ部会・鵬盛岡会合同コンパ

盛岡三高鵬同窓会関東支部ホームページ  
オフィシャルサイト：<http://moriokasankou.com>

お問い合わせ：関東支部事務局 ootorikantou@gmail.com  
電話 090-3237-8108山脇(15回生)

X：鵬同窓会関東支部公式 @ootori\_kantou

Facebook：盛岡三高鵬同窓会(非公開グループ) <https://www.facebook.com/groups/moriokasanko.otori/>

### 関東支部総会・懇親会の予定

日時：2026年2月7日(土) 16時～  
場所：東京グリーンパレスホテル(麹町)  
※開催は都合により変更される場合があります。

全国の鵬同窓生が、ご自身の活動や他の同窓生の活躍などをアップしています。  
総会やイベントの告知もしています。ぜひ、登録してください!

## 【学校ホームページお知らせ】

生徒の活動等詳しくはHPをご覧ください。  
<http://www2.iwate-ed.jp/mo3-h/>

「note」で日々の三高の様子を発信しています。  
QRコードまたは公式Webサイト上のリンクからぜひご覧ください。

